

Builder:
椿建築所

Note:
山ノ内町/Q邸
家族構成/4人



外へ開く家、外に開く暮らし



呼吸しているはずと察するのはつまり、配置の妙です。とりわけ南西側の庭に向かって大きく開いた窓は、外の世界へ向けて内なる領域を開き、外の瑞々しさや温かさを内へ招き入れているようです。敷地は220坪。大きく広がる庭に「裸足で駆け出したくなる」ようなプランにしたことのQさん夫妻の希望で、薪ストーブを置いた土間リビングから、デッキ、そして庭を段差なくつなぎました。大開口を開放せば、まさしく「庭はリビング、リビングは庭」です。

北に高井富士の異名をもつ高社山、西には北信五岳、東はりんご畑が続く斜面の向こうに志賀高原を見晴らしてQ邸はあります。むろん配されているのは、山々ではなく、敷地の「個性」を入念に観察したうえ、日当たり、風の道、水はけや地盤の強さ等を勘案し、ここへ置くに如かずと位置を決めた、家の方。家とそこに暮らす人は、きっと周囲の環境の優しさも雄々しさも深

テーマは、「庭はリビング、リビングは庭」



椿建築所 佐藤 慶一さん

椿建築所代表取締役。1972年生まれ。長野市内の工務店にて設計、現場管理、積算の実務に携わったうえ、2013年に椿建築所開設。



コンセプトである「庭はリビング、リビングは庭」を体現する仕掛けとして土間→デッキ→庭のレベルをフラットにしている。



「設計道場」で教えを請うた秋山東一氏と語り合う。そこで身につけた設計手順や考え方がこの家にも生かされている。



「みんなにも町にも喜ばれる家」をコンセプトに

他県から移住し隣村の村営住宅で過ごしていた一家は、お子さんの小学校入学を期し、この町に家をつくることにしました。移住の先輩でご主人と趣味も同じくする家族の紹介で知った樺建築所の佐藤さんと話すうち、自分たちが願う「イギリスの田舎のように、小さく古いおうちを大事に使う暮らし」も「都会ではできない外に開けていく暮らし」も叶うはずと思えました。たとえば樺建築所では、「みんなにも町にも喜ばれる家」をコンセプトの一つに掲げます。住まいがその外側に対しても責任をもてるように、家と町の間を大切にします。

Q 邸なら庭とつながる土間とデッキが、また東側の玄関ポーチや西側のテラスも、中間領域としてこの家らしさを表し、この家らしさを通じてこの町らしさを問い、探っているのです。

「みんなにも町にも喜ばれる家」をコンセプトに



中に入ると土間リビングがいかに外に開けた空間で、内と外との中間領域として機能しているかが分かる。ペニヤ仕上げの壁は子どもの描いた絵も気兼ねなく貼れる。土間小上がりは、子どもたちお気に入りのフリースペース。

住む人へ自在さや 余地を託す家づくり

住まいの1階部分は基本的にワンルームで構成され、広い空間を造作家具で緩く仕切っています。厳密に役割を負わせた部屋を組み合わせるのではなく、室内空間全体を時々の必要に応じて使えばいいという自在な発想。その余地ゆえに、この家とは長く付き合えそうです。

天井や壁に施したヒノキペニヤ仕上げも、質素でミニマルな素材ゆえ、やはり住む人に自在さや余地を託します。丁寧に使い続けたいです。

長期優良住宅仕様という必要価値、びおソーラーと薪ストーブとルーバー窓を組み合わせた効率的な暖房の仕組み等で、安心して快適に暮らせる環境は確保されています。ただ、この先ずっと家族と率直に向き合える日々が続くと信じられるのは、この家に仕掛けられた自在さや余地にも理由があります。

それは、まっさらなキャンパスを前にして思う、いわば余白の喚起力です。



内と外との中間領域も、外の世界に対して余白の喚起力を備えています。

子どもたちはリビングから庭へ飛び出していき、そこに謎えたMTBコースで自転車を駆っています。そうかと思えば、家のどこからいつ出たのやら、知らないうちに近所へお邪魔して遊んでいます。子育ての先輩として奥様のご両親曰く「子どもが成長するための家だね」。

奥様はお隣さんに「お好きに使ってね」と言われた花壇へ、西側のテラスからサンダル履きで行き、花をいただいでダイニングに生けます。ご主人は玄関で、そこに置いた自転車やスキー板の手入れをしながら次の休日のプランを練ります。

内と外、二つの世界が交わらない場には何も起こりません。中間領域を介して、両者が同じ一つの場になることで、何かが始まる可能性が芽生えます。

だから椿建築所の佐藤さんは家を外へ向かって開き、中間領域でつなぎます。そして、その中間領域の意味を引き出し、生かし、暮らしを外に開いていくのは、そこに住む家族なのです。

中間領域のもつ余白の喚起力に刺激されて



キッチン長さ5.5mのカウンターとたっぷり収納のパントリーを確保。窓からは里山とぶどう畑が見える。

